

平成25年度 全国学力・学習状況調査
札幌市の調査結果の概要

平成25年10月

札幌市教育委員会

調査の概要

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。また、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的としている。

なお、本調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面であることに十分に配慮することが必要である。

2 対象学年

- ・小学校第6学年、特別支援学校小学部第6学年
- ・中学校第3学年、特別支援学校中学部第3学年

3 調査の内容

① 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 (国語A、算数・数学A)	主として「活用」に関する問題 (国語B、算数・数学B)
<ul style="list-style-type: none"> ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など 	<ul style="list-style-type: none"> ・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などに関わる内容 ・様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容

② 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
<ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 <p>※平成25年度調査は、きめ細かく把握・分析できるように複数冊子化して実施されており、各学校単位で割り振られた1冊子のみ調査を実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校における指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

4 実施日

平成25年4月24日 (水)

5 調査を受けた人数等

【札幌市】

	在籍数	調査を受けた人数及び参加率	
小学校	15,400人	14,876人	96.6%
中学校	15,271人	14,486人	94.9%
合計	30,671人	29,362人	95.7%

※小学校には特別支援学校小学部を、中学校には特別支援学校中学部を含む。

※調査を受けた人数は、回収した解答用紙が最も多かった教科の人数。

※調査当日、インフルエンザによる学年閉鎖を行い、4月25日以降に実施した学校(小学校1校)の結果は集計に含まれないため、在籍数及び調査を受けた人数から除いている。

札幌の子どもの「学力」と「学習意欲等」について ～ 結果の全体概要～

教科に関する調査結果から

【小学校】

国語、算数の問題A、Bいずれも、
全国平均正答率と「ほぼ同程度」

【中学校】

国語、数学の問題A、Bいずれも、
全国平均正答率と「ほぼ同程度」

※問題A…主として「知識」に関する問題、問題B…主として「活用」に関する問題（詳しくはP1を参照のこと）
※「ほぼ同程度」は、全国の平均正答率と比較して±3ポイントの範囲内。

- ◆知識・技能の定着については、小学校国語（漢字を書くことなど）、算数（小数の計算など）に継続的な課題。（一部の問題で、全国平均正答率を下回る状況）
- ◆「活用」に関しては、中学校で全国平均正答率を上回る問題が見られている。一方、「与えられた条件を基に筋道を立てて考え、記述すること」や「事実を基にして自分の考えをもつこと」などの問題で、全国と同様に誤答率・無解答率が高い状況が見られ、小・中学校ともに課題。

※「下回る」は、全国の平均正答率と比較して3.1ポイント以上、下回る状況。
※「上回る」は、全国の平均正答率と比較して3.1ポイント以上、上回る状況。

児童生徒に対する質問紙調査結果から

■読書が好きな子どもの割合は増加し、全国平均より高い状況。

H19年度：小 72.0% (71.3%) 中 66.5% (67.9%)

H25年度：小 74.5% (72.1%) 中 76.3% (70.1%)

■難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している子どもの割合は増加しているが、全国平均より低い状況。

H19年度：小 69.8% (72.3%) 中 62.7% (62.0%)

H25年度：小 71.2% (75.0%) 中 65.7% (66.8%)

■将来の夢や目標をもっている子どもの割合は増加しているが、全国平均より低い状況。

H19年度：小 81.5% (83.7%) 中 69.2% (70.7%)

H25年度：小 85.7% (87.7%) 中 71.5% (73.5%)

※（ ）内は全国平均

本市の概要

【区分及び領域】

主として「知識」に関する問題（A）

「話すこと・聞くこと」

△全国平均に比べ、上回っている。

「書くこと」

◆全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

「読むこと」

◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

「言語事項」

◆全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

主として「活用」に関する問題（B）

「話すこと・聞くこと」

◆全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

「書くこと」

◆全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

「読むこと」

◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

「言語事項」

◆全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

※ 記述式の問題においては、無解答が、全国平均よりやや多くなっている。

記号の意味

(△) 上回っている

(◇) やや上回っている +3%

← 全国平均正答率

(◆) やや下回っている -3%

(▼) 下回っている

※ 「ほぼ同程度」は、全国の平均正答率と比較して±3ポイントの範囲内。

今回の調査における課題

●話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめて、意見や提案を述べること。

●目的に応じて資料を読み、分かったことを的確に書くこと。

●引用したり、複数の内容を関係付けたりしながら、調べたことや自分の考えを組み合わせたりフレッツや新聞などの表現形式にまとめて書くこと。

●複数の推薦文を比べて読み、推薦している対象や理由、読み方の違いを捉えること。

●文の定義を理解し、文と文の意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書くこと。

●学年別漢字配当表の当該学年の前の学年までに配当されている漢字を正しく書くこと。

改善の方向

○確認や質問をしながら話の内容を理解し、自分の考えを明確にした上で、相手の立場や状況に合わせて助言をしよう言語活動を通じた指導の充実。

○図や表、グラフ等の資料を的確に読み取り、考察し、その情報を基に自分の考えを書く指導の充実。

○引用した事実と自分の考えとを区別しながら複数の内容を関係付け、目的や条件に合わせて自分の考えを書く指導の充実。

○推薦する観点に基づいて本や文章を読み、その特徴を捉え、相手意識を明確にして推薦文を書く言語活動を通じた指導の充実。

○文の定義や構造を考えながら、複数の内容を1文にまとめたり、1文を内容ごとに複数の文に分けたりするなど、言語を操作する指導の充実。

○国語辞典や漢字辞典の利用を習慣付けることで、漢字を習得したり語彙を拡充したりする指導の充実。

小学校国語		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度	
分類	区分	全国との比較 (A)	全国との比較 (B)	全国との比較 (A)	全国との比較 (B)	全国との比較 (A)	全国との比較 (B)	全国との比較 (A)	全国との比較 (B)	全国との比較 (A)	全国との比較 (B)
学習指導要領 の領域	話すこと・聞くこと	◇	◆	◇	◆	東日本大震災の影響等により、国において調査の実施を見送り		◇	◇	△	◆
	書くこと	◆	◆	◇	—		◆	◆	◆	◆	◆
	読むこと	◆	◇	◆	◆		—	◇	◇	◇	◇
	言語事項※	◆	◇	◆	◆		◆	◇	◆	◆	◆

(△) 上回っている (◇) ほぼ同程度だがやや上回っている (—) 全国平均と同じ (◆) ほぼ同程度だがやや下回っている (▼) 下回っている

※平成24年度調査から「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に変更。

本市の概要

【区分及び領域】

主として「知識」に関する問題（A）

「数と計算」

◆全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

「量と測定」

◆全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

「図形」

◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

「数量関係」

◆全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

主として「活用」に関する問題（B）

「数と計算」

◆全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

「量と測定」

◆全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

「図形」

◆全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

「数量関係」

◆全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

※ 記述式の問題においては、無解答が、全国平均よりやや多くなっている。

記号の意味

(△) 上回っている

ほぼ同程度



(◇) やや上回っている +3%

← 全国平均正答率

(◆) やや下回っている -3%

※ 「ほぼ同程度」は、全国の平均正答率と比較して ±3ポイントの範囲内。

今回の調査における課題

● 確実に四則計算を行い、計算結果を活用して筋道立てて問題を解決し、その過程を明確にして説明すること。

● 割合や平均の意味と表し方、面積の単位や求め方を理解すること。

● 合同な図形をかくために必要な条件や、立体図形の構成要素について理解を深めること。

● 計算の順序についてのきまりを理解し、四則の混合した式などを正しく計算することや、百分率などの割合の考えを用いて数量の関係を読み取ったりすること。

改善の方向

○ 計算結果の見積りを生かしながら正しく計算することができるよう習熟を図る指導や、数直線や図を用いて、既習と関連付けながら、根拠を明確にして説明する算数的活動の充実。

○ 割合や平均などについて、表と式、図と式を対応させるなどして、式や結果の数値の意味への理解を深める指導や、面積や体積などの量の単位を適切に選択したり、求積方法について図や式を用いて説明したりする算数的活動の充実。

○ 作業的・体験的な活動などの算数的活動を通して、ものの形について観察、構成し、基本的な図形についての理解を深める指導の充実。

○ 表やグラフ、数直線や式などに数量の関係を表したり、読み取ったり、それらを相互に関連付けて数量の関係を説明したりする算数的活動の充実。

小学校算数		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度	
分類	区分	全国との比較 (A)	全国との比較 (B)	全国との比較 (A)	全国との比較 (B)	全国との比較 (A)	全国との比較 (B)	全国との比較 (A)	全国との比較 (B)	全国との比較 (A)	全国との比較 (B)
学習指導要領 の領域	数と計算	◆	◇	◆	◆	東日本大震災の影響等により、国において調査の実施を見送り	◆	◆	◆	◆	
	量と測定	▼	◇	▼	◆		◆	◆	◆	◆	
	図形	◆	◇	◆	◆		◆	◇	◇	◆	
	数量関係	◆	◇	▼	◆		▼	◆	◆	◆	

(△) 上回っている (◇) ほぼ同程度だがやや上回っている (○) 全国平均と同じ (◆) ほぼ同程度だがやや下回っている (▼) 下回っている

本市の概要

【区分及び領域】

主として「知識」に関する問題（A）

「話すこと・聞くこと」

◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

「書くこと」

◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

「読むこと」

◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

「言語事項」

◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

主として「活用」に関する問題（B）

「書くこと」

△全国平均を上回っている。

「読むこと」

◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

「言語事項」

△全国平均を上回っている。

記号の意味

(△) 上回っている

ほぼ同程度

(◇) やや上回っている +3%

(◆) やや下回っている -3%

(▼) 下回っている

※「ほぼ同程度」は、全国平均正答率と比較して±3ポイントの範囲内。

今回の調査における課題

●文の接続に注意し、伝えたい事柄を明確にしながら目的に応じた表現で書くこと。

●段落相互の関係を理解し、文章の展開を捉えた上で、課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考えること。

●図表などの情報を関連させて読みながら文章の構成や表現の特徴を捉えること。

●文脈に即して漢字を正しく書いたり、語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うこと。

●比喩を用いた表現について理解すること。

改善の方向

○伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるよう必要な情報を適切に取り上げながら、自分の表現に役立てて書く指導の充実。

○文章を読んで新たな課題を見いだすとともに、収集手段の特徴を考えながら必要な情報を基に課題の解決に取り組む指導の充実。

○新聞記事や説明的な文章等、複数の文章を読み比べて、文章の形態に応じた構成や展開、表現の特徴を捉える指導の充実。

○作文や読書活動などの多様な言語活動を通して語彙の拡充を図る指導の充実。

○比喩等の表現技法に着目しながら文章の内容を捉え、自分の経験と結び付けて情景を想像したりする指導の充実。

中学校国語		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度	
分類	区分	全国との比較 (A)	全国との比較 (B)	全国との比較 (A)	全国との比較 (B)	全国との比較 (A)	全国との比較 (B)	全国との比較 (A)	全国との比較 (B)	全国との比較 (A)	全国との比較 (B)
学習指導要領の領域	話すこと・聞くこと	◇	△	△	◇			◇	◇	◇	△
	書くこと	◇	◇	△	◇			◇	◇	◇	△
	読むこと	◇	◇	◇	◇			△	△	◇	◇
	言語事項※	◇	△	◇	△			◇	△	◇	△

(△) 上回っている (◇) ほぼ同程度だがやや上回っている (○) 全国平均と同じ (◆) ほぼ同程度だがやや下回っている (▼) 下回っている
 ※平成25年度調査から「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に変更。

本市の概要

【区分及び領域】

主として「知識」に関する問題（A）

「数と式」

◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

「図形」

◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

「関数」

◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

「資料の活用」

△全国平均に比べ、上回っている。

主として「活用」に関する問題（B）

「数と式」

◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

「図形」

◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

「関数」

◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

「資料の活用」

◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

今回の調査における課題

- 数量の関係や法則などを文字式で表したり、事象と式の対応を的確に捉え、事象が成り立つ理由を説明したりすること。

- 提示された方針に基づいて、証明すること。

- 関数の意味について理解するとともに、事象を式の意味に即し多面的に解釈し、その結果を数学的な表現を用いて説明すること。

- 与えられたヒストグラムについて、ある階級の相対度数を求め比較するなどし、資料の傾向を的確に捉え、事象の特徴を数学的に説明すること。

改善の方向

- 事柄や数量の関係を文字式で表したり、その文字式の意味を読み取ったりするとともに、事象を多面的に見ることができるようになる指導の充実。

- 証明の方針を立てるために、与えられた条件を整理したり、性質や関係を見いだしたりするなどの活動を取り入れた指導の充実。

- 具体的な事象の中の2つの数量の関係を見だし、その関係を確認するなどし、関数の意味についての理解を深めるとともに、数学的な解釈に基づいて、適切な表現を用いて的確に説明できるようにする指導の充実。

- 不確定な事象について、目的に応じた資料の整理の仕方を考え、相対度数の必要性と意味についての理解を深めるとともに、資料の傾向を読み取る活動や数学的に説明する活動を取り入れた指導の充実。

記号の意味

(△) 上回っている

(◇) やや上回っている +3%

ほぼ同程度 ← 全国平均正答率

(◆) やや下回っている -3%

(▼) 下回っている

※「ほぼ同程度」は、全国の平均正答率と比較して±3ポイントの範囲内。

中学校数学		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		
分類	区分	全国との比較	全国との比較	全国との比較	全国との比較	全国との比較	全国との比較	全国との比較	全国との比較	区分	全国との比較	全国との比較
		(A)	(B)	(A)	(B)	(A)	(B)	(A)	(B)	(A)	(B)	
学習指導要領の領域	数と式	◇	◇	◇	△	東日本大震災の影響等により、国において調査の実施を見送り	◇	△	数と式	◇	◇	
	図形	△	△	△	△		◇	△	図形	◇	◇	
	数量関係	△	◇	△	△		△	△	関数※	◇	◇	
									資料の活用※	△	◇	

(△)上回っている (◇)ほぼ同程度だがやや上回っている (一)全国平均と同じ (◆)ほぼ同程度だがやや下回っている (▼)下回っている

※平成25年度調査から区分が一部変更。